

教育普及グループ 特別ワークショップ・レクチャー「植物をめぐる7つのお話」



12/2(土) 素材と技術・ 触って感じる七島蘭

国東で七島蘭工芸作家として活躍する岩切千佳氏による講座は、七島蘭について学び、実際に触れ、七島蘭で細い縄を編み小さなお正月飾りを作るワークショップまで付いた充実ぶり。参加者もすっかり七島蘭に魅了され、「東京オリンピックの柔道会場では、七島蘭の畳表が活躍するでしょうか?」といった質問も飛び出していました。

七島蘭の世界に深くハマる



11/25(土) 植物の命とともに

講師は、型絞と絞り染め、手描き染めを併用しながら独自の世界観を着物に表現する染色家の古澤万千子氏。その技法や染色の歴史、モチーフとなった植物や染色に使われる植物などを紹介しました。会場内には古澤氏の作品が展示されており、休憩時間には多くの参加者が美しい着物に入り、熱心に質問する姿も見られました。

色材の植物の命を考える



11/11(土) 大分植物四方山話

大分大学名誉教授で、旦野原キャンパスの草花の地図「FLOWER MAP」を制作した武井雅宏氏による植物の話。大学の山野草の紹介から植物学から見た日本の境界線、記念樹などの花木の裏話や見解、日本の伝統行事に関わる植物など、植物にまつわる話題は多岐にわたりました。ユーモアを交えながらのお話に参加からは笑い声も。

魅力的な植物の世界への誘い

地域美術館体験講座



10/12(木)~14(土) 美術館からのおくりもの

竹田市久住町の久住高原美術館で行われた「子ども美術館」では竹田市内の幼稚園・子ども園の子どもたちを招待しました。宇治山哲平の「阿咩」を鑑賞した幼稚園児は、「ダイヤモンドみたい!」「怖い感じ」など、いっぱいお話ししました。



11/24(金) 美術にみる遙かな海・神秘的大地

津久見市立第一中学校で行われた「移動美術館」。2年生91名が一日学芸員となり、同校の中学生から高校生、訪れた地元住民まで、お気に入りの作品について自分の言葉で紹介しました。



11/2(木) 食と色彩 ~目で食べる、五感で見る~

国東市立安岐中学校で行われた「スクールミュージアム」。一般聴講者も招いての特別講演では、九州国立博物館副館長の伊藤嘉章氏が「食と色彩—そして形も—」と題し、講演。終了後、生徒代表から「普段何気なく使っている器の歴史や違いを知ることができました」と謝辞が述べられました。会場となった体育館には、食と色彩のテーマに合わせ、様々な食べ物を描いた福田平八郎の作品や色鮮やかな版画作品を中心に、市出身の江藤哲の作品なども展示されました。



20世紀の総合芸術家 イサム・ノグチー彫刻から身体・庭へー展関連イベント



12/9(土) レクチャーⅡ イサム・ノグチーからはじめる 環境デザイン—空間を彫刻する試み—

建築家の塩塚隆生氏と、大分大学の田中修二教授の講演が行われた第一部。塩塚氏はランドスケープデザインに関わるご自身の仕事を紹介し、田中氏は岡本太郎の手記を基にイサム・ノグチーと岡本太郎を対比、検証しました。第二部では、芸術文化短期大学の根之本英二教授と新見館長を交え、ディスカッションが行われました。

環境デザインを作品から読み解く



12/3(日) レクチャーⅠ イサム・ノグチーをめぐる 戦後日本の音楽創作—武満徹 《巡》—イサム・ノグチーの追憶に—を起点に—

大分大学の清水慶彦准教授を講師に迎え、イサム・ノグチーと関わりのあった作曲家、武満徹を起点に現代音楽について知る濃密な2時間。武満がノグチーの死を悼んで作曲した『巡り』など、フルート独奏4曲を解説付きで楽しむことができる、貴重なレクチャーとなりました。

ノグチーの影響は、日本の現代音楽にも



11/17(金) 国際シンポジウム 「彫刻家イサム・ノグチーの人、 仕事、芸術」

イサム・ノグチーの誕生日に開幕した展覧会の第1弾イベントとして国際シンポジウムが行われました。ニューヨークと香川にあるイサム・ノグチー財団・庭園美術館の両館長、ジェニー・ディクソン氏と和泉正敏氏、彫刻家の合田習一氏が登壇。プレゼンの後、新見館長を交えたクロストークが行われ、会場を大いに沸かせました。

身近な人が語る、人柄や作品秘話